

令和4年度病害虫発生予察注意報第5号

令和4年8月19日
愛知県

作物名：水稻

病害虫名：トビイロウンカ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 やや多い
- 3 注意報発令の根拠

(1) 8月上旬の本田調査において**豊田市及び長久手市で発生を確認**した。8月上旬調査において、複数地点で本種が確認された年は過去10年のうち3年しかなく、いずれの年もその後に坪枯れの発生を確認している。

(2) 8月15日から18日にかけて26地点103ほ場で実施した臨時調査で**岡崎市、新城市及び豊川市**の5地点5ほ場で本種成虫(図1)を確認した。臨時調査における発生ほ場率は、4.85%と高い(参考^註 過去10年間の8月下旬調査におけるトビイロウンカの発生ほ場率の平年値 1.72%)。

注) 本年値は臨時調査であり、8月下旬調査とは調査地点が異なるため参考値

(3) 8月第2半旬に**大口町**、8月第3半旬に**長久手市**の予察灯において本種の誘殺が確認された。過去10年間で8月第3半旬までに複数地点で誘殺が確認されたことはない。

(4) 8月18日発表の1か月予報では、向こう1か月気温は高いと予想されており、今後も本種の増殖に好適な条件が続くと予測される。

4 防除上注意すべき事項

(1) 本種は地域やほ場間で発生状況が異なるため、ほ場の見回りを十分に行い、株元への寄生(図2)、坪枯れの初期症状や坪枯れ(図3、4)を認めたら直ちに防除する。

(2) **本種が確認された近隣の地域で、箱施用剤を使用していない場合または、ウンカ類に適用のないものを使用している場合は、表1及び表2を参考に防除する。**また、トビイロウンカに効果が高く、薬効期間が長いトリフルメゾピリム、フルピリミンやオキサズスルフィルを含む箱施用剤を使用していないほ場では表1及び表2を参考に防除する。

(3) 防除適期は各世代の幼虫発生期である。有効積算温度を元に予測した第二世代幼虫期(表1)を参考とする。

(4) 本種は株元に生息するので、液剤や粉剤を使用して防除する場合は、株元に薬剤が十分かかるように散布する。

(5) 粒剤を使用する場合は水田を湛水する。また、効果が現れるまでに時間を要するため、早めに散布する。

(6) 収穫期近くのほ場で坪枯れの初期症状が確認された場合は、できるだけ早く収穫する。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話：0561-62-0085(内線471)

表1 地域別のトビイロウンカ第二世代幼虫期の予測（8月19日計算）

飛来予測日	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	新城	稲武	蒲郡	豊橋	伊良湖
6月22日	8月19日 ～9月1日	8月14日 ～27日	8月16日 ～29日	8月18日 ～31日	8月20日 ～9月2日	8月17日 ～30日	8月19日 ～9月1日	8月24日 ～9月10日	8月16日 ～29日	8月13日 ～26日	8月13日 ～25日
6月25日	8月21日 ～9月3日	8月17日 ～30日	8月18日 ～30日	8月20日 ～9月2日	8月22日 ～9月4日	8月19日 ～9月1日	8月22日 ～9月5日	8月30日 ～9月18日	8月20日 ～9月2日	8月16日 ～29日	8月17日 ～30日

日本植物防疫協会提供の飛来解析*で本県へ飛来したとされる6月22日、25日に本虫が飛来したと仮定して計算。

各地のアメダスの平均気温から有効積算温度をもとに計算した予測。

8月18日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

*飛来解析はデータ提供元の不具合により6月26日以降の解析無し。

表2 ウンカ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
トレボン粒剤	エトフェンプロックス	収穫21日前まで	3回以内	3 A
トレボン乳剤	エトフェンプロックス	収穫14日前まで	3回以内	3 A
トレボン粉剤DL	エトフェンプロックス	収穫7日前まで	3回以内	3 A
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤				
スタークル液剤10	ジノテフラン	収穫7日前まで	3回以内	4 A
スタークル/アルバリン粒剤				
スタークル/アルバリン粉剤DL				
エクシードフロアブル	スルホキサフロル	収穫7日前まで	3回以内	4 C
エミリアフロアブル	フルピリミン	収穫7日前まで	2回以内	4 F

成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、

https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/2021/mechanism_irac03.pdf を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。



図1 トビイロウンカ成虫（長翅型）



図2 株元に群がるトビイロウンカ（成虫及び幼虫）



図3 坪枯れ（赤矢印）及び坪枯れの初期症状（青矢印塗り潰し）



図4 トビイロウンカによる坪枯れ